

後立山縦走六一ノイ

・期間 7月18日～7月26日

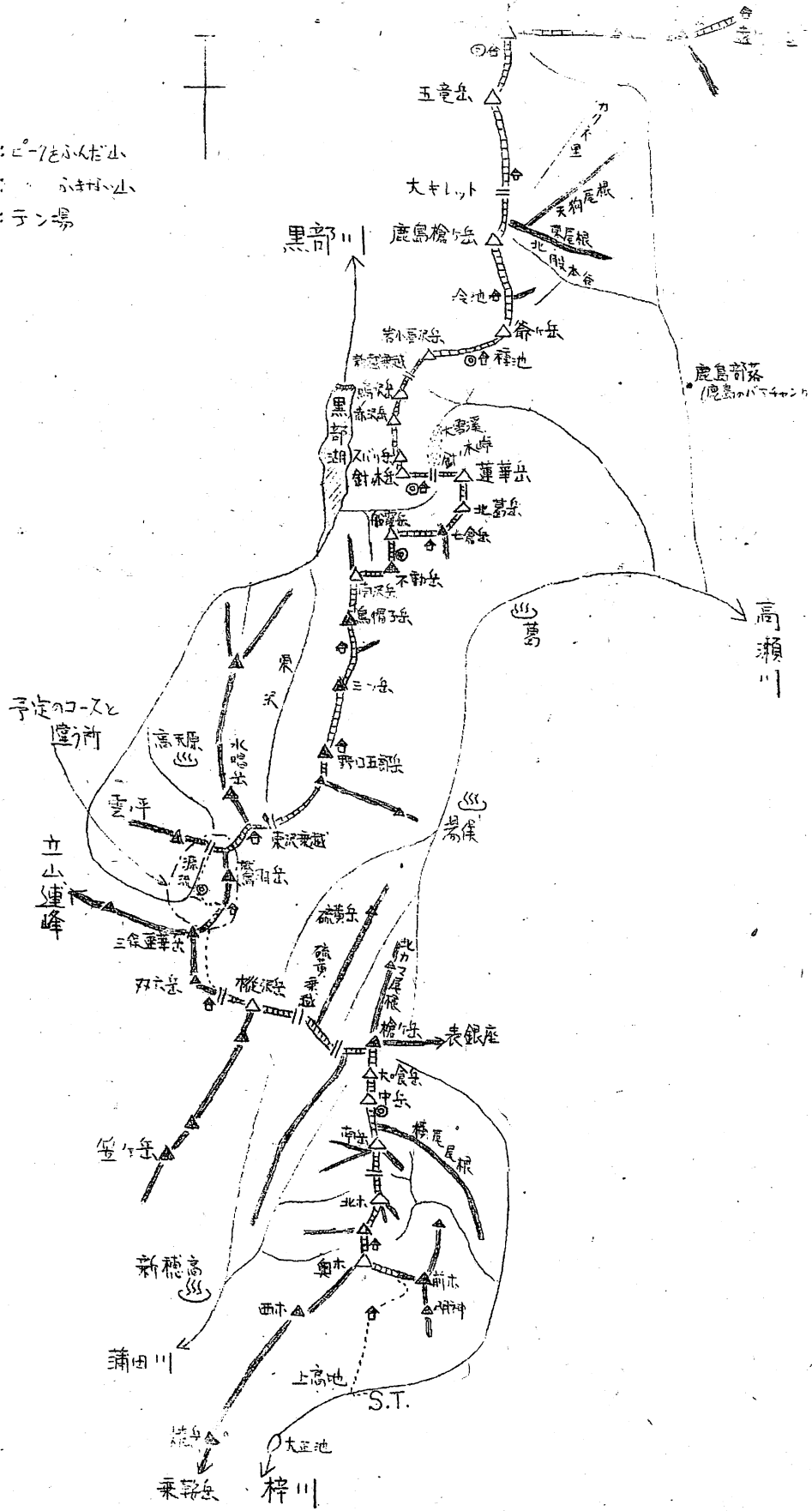
・Member
Leader: 中田 茂 (4) Essen: 小川 幸三 (1) 装備: 近藤 伴行
記録係: 斉藤 吉盛 (1) 赤外計画係: 豊田 信行 (1) (1)

・Leader様のお言葉 <この夏山の縦走を終えて>

この山行で何かしら一つの義務感みたいなものがかたすいた心持
 ちになった。四年間、毎年夏山は縦走を行ない、一年生が自分をし
 こく姿をみてきたが、それは心楽しいことであり、初心忘るべから
 ずとぼくに語りかけてくれたことに感謝する。天邪鬼だったとは思
 いたくないが、多くの部員が沢へ沢へと夏に出かけ行くのを横眼
 で見つめながら、これでいいのかと自分に問いつつ山に行った。心
 のかたすみに偏狭なところがまだ自分に存るとも考えたが、それは
 それ。やはり縦走も一つの山登りであるとして、現在確信している。
 この最後になるかもしれない夏山がすべ一年生の手により計画
 されたものだというところに意義を感じる。まだまだ計画立案につ
 いま甘さがあったが、それは彼らの体力で彼ら自身一生命うめあ
 めせまくれたことであつた。彼ら何人々々の気がつかないところ
 し得ないこともあった。彼ら何人々々の気がつかないところであ
 し、また彼ら自身の性格から来るものであつたのだらうが、ほ
 くにとつて無慮としか思えないようなことでもPartyの由に気ま
 い空気を作り、楽しくあるべき山行に暗さを加えたことも度々見
 れた。以後、口先だけでなく、本当のメンバーシップを実践し
 けるようになって欲しい。

以下、悪い面を列挙する。
 ・落石に気をつけること。浮石などの確認も大事である。
 ・虫登の際、行動は出来る限りすみやかにすること。疲れてくると
 思うようにはいかなくなるのが常だが、斬えず心さひきしめても
 らいたい。夕方の気持が吾等の致命傷になり得るのだ。
 ・Essenには細心の注意を払う。火器その他の取り扱いや、料理の一
 味一味までもないがしるにしないようにしてもらいたい。
 ・自主性を持って動いてもらいたい。特に朝はしっかり起きること
 大きかに見てコメントしたが、これらだけは必ず心懸けてもらいた
 いことである。上にあげないことも努力すべきである。また良い
 面も多くあるので積極的に向上すること。あるが、ただ山に登るだけ
 最後一年生の中から出た意見なのである。山行をしたら、確
 では進歩がない。別なNewjoiceを日々見つけたせいで、山の中
 かにはさうである。山に行く本源的な動機がKamantismの中か
 ら発して、山にいくと、追求めてみるべきだと思ふ。しかならな
 い喜びはさう易々と手に入るものではない。相対的な苦勞を重
 めるものであつて、た之れが水たここと
 らが日々Newjoiceを見つけて得る喜びではないか。御苦勞さん
 9月末日 中田 茂

- △: 口-7を以て示す
- ▲: 口-7を以て示す
- ◎: テン場



日記録

うである

7/18 ◎ 5:30 神城 今日天気になりそうである

①

◎ 10:25 リフト終点 全員ハテ気味 近藤不調

12:20 ◎ 遠見小屋天場 リフトの工事中、小屋はやっていない

感想：荷が重く暑かったりでハテた。汗が小キツまりたたくせん出た。遠見尾根は二の前来た時も小屋までたつた。因縁つきの尾根である。

7/19

◎ 5:10 出発 白馬が見える。すこし中である。

◎ 9:05 大遠見 五竜が圧倒的に迫る。“どえりや高きあわー”

◎ 11:00 五竜小屋天場 500円とされる。水は、白糸の雪溪に取りに行く

感想：今日は、きのうよりも調子がよかったが、肩が痛くてこまった。白糸の頂上で野性の雷鳥と女を見た。ホーツ、ホーツと叫んでいた。水をくむのが苦勞である。テント化1人120円もとって、水場も作らないうちで、その金はどこへ行くのだろうか。

(以上各藤)

7/20 ○ 5:05 出発 下界層雲と層積の雲海。富士山、浅間山がけむり、ほかよく見える

○ 6:10 五竜山頂 視界非常によし、台風の近いせいかな

① 9:50 キレット小屋 歩行に注意を要する。時々カスる

① 12:00 鹿島頂上 人多し、とにかくしんどい

13:42 冷小屋 人多し

15:45 種池天場 ハイカー、中学生の集団登山

感想：とにかくつかれました。これは計画ミスである。最近のかきは、ませたのが多い。(豊田 (豊田))

7/21 ○ 時々 ◎ 終日休養

午前中各藤、小川はツツへ行くと。(各藤)

7/22 ◎ 5:22 出発 赤ツツのパーティー(芝工大山岳部)が遅い為

① 7:10 遅くなる。いろいろした。

◎ 新越乗越 剣立山、白馬が時々見える。ペースが早い。舟窪まで行けるっでは?

11:27 針ノ木頂上 展望があまりきかない。面白くない。人がいっぱい。

12:30 峠天場 小川近所各々が雪溪へ水くみ。

感想：おれとしては舟窪まで行きたかったのだが、しかなかった。明日はおれが先頭だから鳥帽子まで行きたい。今日の収穫はコマクサを見たことだ。

7/23 出発

6:00 蓮華頂上 小川トップでちょっと早いペース。不動かまで
7:50 きたいのた。コマリサが、いっはのり咲いてる。

7:58 北葛岳頂上 寒い寒い。ツェンパーを着る。

① 9:50 舟漕小屋 行ける所まで行くことになる。

12:05 舟漕最高峰 晴れてきた。暑い。ゴツゴツのいどさにはおどろ
いた。中田さんが今の登りのつらさに「久しぶりに登った感じた。」と云ってる。オレは腹
か入ってバテそうだった。

14:13 不動手前の天場

感想:今日は、オレがトップだったか、不動かまでの目的が達せられた
のでまあ満足。しかし下りは、もっととほした。 (以上小川)

7/24 05:50 発

① 8:50 鳥帽子小屋 かわいい女の子がいっはのり。

② 11:20 野口五郎 今日昨日に比べると人にたくさん会う。美しい人
に会うとカガ出るのた。

2:00 水晶小屋 雨が降りそう。皆ハテ気味。

3:40 黒部源流の天場

感想:不動系からの道のりは非常に長かった。か、平坦地はもう少し早
く行きたかった。水晶小屋の横で泊まりたかった。

7/25 ① 5:40 発 巻雲。日は強い。

7:40 双六小屋 またまた人が多いのた。大きな大かいた。

11:45 ヤリ看 とても疲れたのです。

1:10 中岳天場 ヤレヤレ

感想:あまりつらくはなかつたか、少し木倉5糸の登りがつらかつた。
(以上近藤)

7/26 05:05 出発 いよいよ最後のガシバリである。

8:45 北木頂上 下りのため、皆必死で便所へとい込む。

① 11:50 奥木頂上 積雪。ほんの小さな小供が、ヘルメットからセルリア
ストまでつけている。身につけてるのはすべて特
注品のように。うらやましい。

2:05 岳沢ヒュッ 奥木からこまでたつた2時間(これも)ス
7:必死で下りてきたか、ものすごかつた。

3:40 S.T. ワーッ。やっと風呂へ入れる。

感想:今日ですべてが終る日。奥木からの下りは、驚異的な早
さで、今でも信じられないのである。とにかく長く楽しい縦
走も終ってしまった。全負無事なのは、一重に中田さん
の苦労のおかげです。 (斎藤)